

約10年ぶりに復活した名曲

## 柿浦みなと踊り（大柿町柿浦地区）



（写真上）快晴のなか、輪になって練習の成果を披露しました。（写真右）柿浦盆祭太鼓倶楽部の叩く太鼓の音が、踊りを盛り上げます。

5月30日(日)に行われた柿浦小運動会で、約10年ぶりに披露された柿浦みなと踊り。これは、同小の岡田 学校長が「子どもが自分のまちなをもっと好きになって欲しい」という思いから、長い間踊られていなかったみなと踊りを復活させようと企画したものです。もともとは、昭和11年に作詞・野口雨情、作曲・藤井清水（呉出身の作曲家）で作られた曲。その後、昭和61年に振り付けを加えて盆踊りなどで踊っていました。いつしか見られなくなってしまう。そこで今回は、柿浦女性会が以前踊っていたときの映像などを集め、記憶をたどりながら振り付けを再現。曲もカトレアコーラス（大柿町）の皆さんが、ピアノ伴奏と歌を録り直しました。

本番では、同校の児童が柿浦女性会の皆さんと一緒に立派な踊りを披露。また、柿浦



「子どもが地域に興味を持つきっかけになれば」と岡田校長。

盆祭太鼓倶楽部が伴奏に加わり、場内から大きな拍手が起きました。

岡田校長は「柿浦らしい情景を思い起こさせる様子が描かれ、味わい深い曲。できれば運動会だけではなく、盆踊りなどでも披露していきたいですね」と話していました。市女性会連合会顧問の大石君枝さんも「この踊りを再現できてとてもうれしいです。地域の行事に子どもが参加するきっかけになって、盆踊りなどが盛り上がればいいですね」と期待を寄せていました。



本番前は練習を繰り返し、踊りを体で覚えこみました。

## ほっつんつき

6月6日(日)に行われた江田島eスポーツクラブの体験教室では、ミニテニスやグラウンドゴルフなど、いろいろな種目が体験できました。表紙に掲載したストラックアウトには、昔野球部に所属していたこともあって個人的に興味津々。写真を撮りながら、ひそかに挑戦の機会をうかがっている。「やってみますか?」と誘っていただいたので、お言葉に甘えて投球開始。

すると、初球から4球連続で的に当たる最高の滑り出し。「おお、自分もまだまだやれるな」と思ったのもつかの間、5球目を外してしまふと動揺してそこから4球連続失敗。9球目は当たりましたが、残りは外れて5枚抜きという結果に。スポーツでも仕事でも、一度つまづくとも立ち直るのに時間がかかってしまうところが自分の課題のようです。